

昭和 63 年度～平成元年度調査・研究事業

**株式会社設立事業(ふるさとクーポン販売事業等) 《山形県西川町》**

**【概要】**

西川町は、これまで行政主導の方式で、地場産品のふるさとクーポン販売、月山水の販売、さらには国民宿舎経営等の事業を行ってきた。このたび、事業の一層の拡大を図るため、民間活力を導入し、株式会社を設立する方向を模索していた。そこで、その可能性調査を行い、具体的対策と今後の方向性を提言した。

**【対象市町村、モデル地域等】**

山形県西川町

**【調査年度】**

昭和 63 年度～平成元年度

**【提案・要請者】**

山形県西川町

**【提言内容・その後の活動等】**

西川町の地域イメージの確立、地域資源の有効活用、競争原理の導入、販路の拡大、および採算性の追及の観点から新会社による効率的な運営が必要。事業の円滑な展開、収益確保、波及効果の最大限の発揮には①人的対応②ネットワーク化③イメージ戦略④オペレーションといった課題に留意するとともに、将来的には新たな事業を基軸としつつ、ソフト、マーケティング、オペレーションが一体化した事業展開の方向性を会社設立時点から十分に検討する必要がある。

**【成果品】**

報告書(在庫なし)

**【調査体制】**

検討会

**【委員長・座長】**

**【事務局】(IVICT は除く)**

**【調査協力機関】**

長銀総合研究所

## 【視察先・ヒアリング先など】

## 【委員等】(分科会等は除く)

平間 久雄 (財)東北産業活性化センター専務理事

林 博一 (財)東北産業活性化センター企画部長

八島 進 (財)東北産業活性化センタープロジェクト振興部課長代理

内野 健一 長銀総合研究所リサーチ事業部主席研究員

妹尾 雅夫 長銀総合研究所リサーチ事業部主任研究員

早川 三枝子 長銀総合研究所リサーチ事業部研究員

新川 雅之 長銀総合研究所リサーチ事業部研究員

## 【特記事項】

## 【区分】

プロジェクト発掘・支援

平成 7 年度調査・研究事業

## 山形県白鷹町の観光開発に関する調査 <山形県白鷹町>

### 【概要】

山形県白鷹町は観光立町を標榜してから 10 年を経過した。この間、町内の豊かな地域資源を活かしたグリーン・ツーリズム構想を策定し、農林水産省の「農山漁村でゆとりある休暇を」推進事業に基づくモデル構想の第 1 グループとしての指定を受けるた(平成 5 年度)。また、本年度には、山形県から「自然博物館・山形」モデル事業として「なつかしさに会えるしらたか伝統工芸村まつり」が助成の対象となっている。

さらに、道路などのインフラ整備が進んだことにより、県都・山形市から車で約 40 分と恵まれた立地環境となってきたため、近隣市町村住民が当町内に移り住む状況にもなっている。

本調査では、町内外の動向、地域の観光資源を踏まえ、誘客の増大とともに親しまれる観光地づくりのための提言を行った。

### 【対象市町村、モデル地域等】

山形県白鷹町

### 【調査年度】

平成 7 年度

### 【提案・要請者】

山形県白鷹町

### 【提言内容・その後の活動等】

現状の課題と方向性として、①「ふるさと森林公園」、「ヤナ場」、「伝統工芸の村」の 3 拠点それぞれの性格づけの明確化と機能の再検討②「各個分散型」観光から「拠点集中→展開型」、「相互補完型」観光への転換推進③恵まれた立地条件を生かす④観光情報の提供・発信態勢の整備が不可欠、の 4 点が挙げられる。今後の観光振興の方向性としては①広域的に集客し得る魅力づくり②宿泊機能の整備・拡充③町内での各資源・施設間のネットワーク形成④積極的かつ効果的な情報発信が求められる。推進にあたっては、関係主体の協調と連携、観光協会の機能強化、観光行政の取り組みの強化と町の役割が重要となる。

### 【成果品】

報告書(在庫なし)

### 【調査体制】

現地調査、レポート作成

### 【委員長・座長】

溝尾 良隆 立教大学社会学部観光学科教授

**【事務局】(MCT は除く)**

羽田 耕治 (財)日本交通公社地域調査室長

**【調査協力機関】**

(財)日本交通公社

**【視察先・ヒアリング先など】**

**【委員等】(分科会等は除く)**

**【区分】**

プロジェクト発掘・支援

平成20年度～平成21年度調査・研究事業

## 六十里越街道でつながる広域連携・交流促進プロジェクト《山形県山形市、鶴岡市、寒河江市、中山町、西川町》

### 【概要】

山形市～鶴岡市間を結ぶ「六十里越街道」は、かつて出羽三山（月山、湯殿山、羽黒山）への信仰の道、庄内と内陸の物流交易の道など多面的な役割を持ち、山形県の中央を横断する中核的的道路として、各地から訪れる参拝者や行商の往来等により賑わっていたが、明治以降、自動車の普及や高速道路等交通網の整備に伴い、街道としての機能は薄れ、街道による地域の結びつきは希薄になってきた。

こうした中、地元関係者の間で、「六十里越街道」の文化価値を再認識するとともに、地域間の連携を深めようとの気運が高まってきた。これまで鶴岡市（旧朝日村）や西川町などが中心になり、古道の保存整備や活用が進められてきたが、本プロジェクトは、こうした取り組みをさらに広域的に進展させ、「六十里越街道」という歴史的な街道でつながった3市2町の沿道自治体（鶴岡市～西川町～寒河江市～中山町～山形市）が行政区域を越えて一体となった地域づくりを進めることを目指したものである。

具体的には、沿道住民の街道文化価値の再認識と交流の活発化、ならびに交流人口拡大による観光振興、地域活性化を目指し、今後の活動指針および具体的なアクションプランの検討・立案を行った。

### 《平成21年度に実施した主な事業》

#### ○広域連携講座の開催（鶴岡市、西川町、寒河江市）

時期：平成21年9月21日～9月26日

内容：沿道住民や関係者に「六十里越街道」の価値を再認識してもらうことを目的に、鶴岡市から山形市までの約120キロを踏破するイベント「六十里越街道を歩く会」（主催：東北芸術工科大学）と連携し、東北芸術工科大学の赤坂憲雄教授や地元歴史研究者などを招き、沿道各地で広域連携講座を開催した。

#### ○六十里越街道モデルツアーの実施（山形市～中山町～寒河江市～西川町～鶴岡市）

時期：平成21年10月26日～28日

内容：「六十里越街道」沿道の3市2町の観光資源を活かした旅行商品の可能性を探るため、旅行代理店の商品企画担当者等を招いたモデルツアーを実施した。旅行商品化の可能性については、大変高い評価を得た。

#### ○六十里越街道広域連携フォーラムの開催（山形市）

時期：平成22年2月7日

内容：「六十里越街道」の沿道住民及び関係者が一堂に会し、同街道を地域における共有財産として広域的に連携・活用していくための意識醸成をはかることを目的に開催した。清水慎一（株）ジェイティービー常務取締役の基調講演、沿道3市2町の首長らによるトークセッションを実施し、県内外から200名超の参加者があった。

### 【対象市町村、モデル地域等】

山形県六十里越街道沿いの3市2町（山形市、鶴岡市、寒河江市、中山町、西川町）

### 【調査年度】

平成20年度～21年度

**【提案・要請者】**

山形市、鶴岡市、寒河江市、中山町、西川町

**【提言内容・その後の活動等】**

上記「六十里越街道広域連携フォーラム」において、3市2町の首長らにより、街道を共通の資源として再認識し、行政区を越えて広域的に連携して文化振興や観光振興につなげていくことが確認された。これにより、「六十里越街道」沿道地域が一体となり、広域的な地域づくりを進めていく土台ができた。平成22年度以降は、本プロジェクトの成果をもとに、広域連携事業の推進組織として3市2町の首長および観光関係事業者などをメンバーとする「(仮)六十里越街道地域連絡会議」を設立し、3市2町のさらなる広域連携・交流促進に向けて、「六十里越街道」に関する合同パンフレット・共通ホームページの作成などのアクションプランを実施していく予定である。

**【成果品】**

報告書(在庫なし)

**【調査体制】**

委員会

**【委員長・座長】**

清水 慎一 株式会社ジェイティービー 常務取締役

**【事務局】(IVICT は除く)****【調査協力機関】**

(株)東北地域環境研究室

**【視察先・ヒアリング先など】****【委員等】(分科会等は除く)**

伊藤 真知子 東北公益文科大学 副学長

張 大石 東北芸術工科大学 文化財保存修復研究センター 准教授

渋谷 雄司 (株)山形新聞社 専務取締役

新関 芳則 (株)丸八やたら漬 代表取締役副社長

宇生 雅明 庄内映画村(株) 代表取締役社長

中村 稔 山形県 商工労働観光部 次長

**【区分】**

プロジェクト発掘・支援